



赤い羽根

ニュース
リリース

（地域歳末たすけあい運動が） はじまります

今年も、**12月1日(木)**から、**地域歳末たすけあい運動**がスタートします。

スローガンは、「**つながり ささえあう みんなの地域づくり**」

この運動は、共同募金運動の一環として、地域住民やボランティア・NPO団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会等の関係機関・団体が協力のもと、生活に困窮している方や社会的孤立状態にあり支援を必要としている方をはじめとし、地域で暮らす誰もが安心して年末の時期を過ごすことができるように、住民の参加や理解を得て多様な福祉活動を展開するものです。

生活困窮や社会的孤立の課題は、パンデミックによる社会的・経済的影響を大きく受けており、ここ数年で課題が複雑化・深刻化しています。

この社会課題に向き合うべく、全国各地で地域歳末たすけあい運動を通じ、様々な取り組みが実施されています。この主旨にご理解のうえ、地域歳末たすけあい運動にぜひご協力いただけますと幸いです。

地域歳末たすけあい運動 概要

スローガン：「**つながり ささえあう みんなの地域づくり**」

募金実施期間：令和4年12月1日(木)～12月31日(土)

募金目標額：41億5,361万円

ホームページ：<https://www.akaihane.or.jp/saimatsu/>

協力方法：共同募金会窓口にご持参いただく(各市町村ごとに窓口があります)

郵便振替

▶詳しくは、上記ホームページをご覧ください。



事例① 「年始応援セット配布事業」(宮城県・亶理町)

宮城県亶理町では、新型コロナウイルス等により心身や生活環境に多大な影響のあった世帯へ、生活に必要な食材等を詰め合わせたセットの配布事業を初めて実施しました。

もともと、フードドライブ事業を実施していたなかで継続的支援が必要な方が多かったことや、新型コロナウイルスの影響により、緊急的に生活にお困りの方が増加している状況だったため、他部署の職員とも連携しつつ、食材セットの配布を企画していきしました。

広報誌でも呼びかけをしつつ、ひとり暮らし高齢者や、貸付等を受け継続的な支援が必要な方など、配布対象世帯を募り、計287世帯へ食材セットを配布しました。

このうち25世帯は、新型コロナウイルスに感染、または濃厚接触者になり自宅療養を余儀なくされた子育て世帯に対し、お菓子などの子ども向け食材配布を行いました。保健所とも連携しながら、外出ができず困っている世帯や早急に支援が必要な世帯を把握していきしました。

握していきしました。

大人向けの食材配布事業は行政なども実施していましたが、こうした子ども向けの緊急的な食材配布はなかなか実施されていなかったため、大変喜んでいただきました。

また、配布の際には、担当者が最近の暮らしぶりや経済的状況をうかがうようにし、必要ならフードドライブ事業や貸付事業におつなぎするなど、支援先の方々を孤立させないように聞き取りも丁寧にしていきしました。

今年度も状況を鑑みながら、即時的な支援ができるよう同様に事業を実施していきたいと考えています。



お菓子などの子ども向け食材も配布

事例② 「玄関前除雪支援事業」(新潟県・燕市)

新潟県燕市では、平成18年度から「玄関前除雪支援事業」を実施しており、高齢者又は障がい者のみの世帯等を対象に、積雪により日常生活に支障をきたしている場合の除雪支援を行っています。

障がい者手帳をお持ちの方や要介護世帯の方などは、自力で除雪・排雪することが困難な場合が多いため、地域歳末たすけあいを活用して早急に対応できるよう支援するしくみです。

除雪作業には自治会、シルバー人材センターの方にご協力いただき、除雪を通し、安否確認も兼ねて声かけを行うなど、孤立防止にもつながるよう実施しています。

昨年の積雪量は例年に比べ少なめではありましたが、民生委員・児童委員及び自治体で緊急的に除雪支援が必要な世帯をまとめていただくなど、希望者を募ったところ、市内で140世帯への支援に

つながりました。助けを必要としている潜在的なニーズが多いことがわかり、緊急的な支援をしています。

実際に活動いただいた民生委員・児童委員の方からは「自分も地域の役に立てるのは嬉しい。除雪活動を通して、車イスの方が住んでいるのが分かった。災害が起こった時には安否確認をしたい。」といった声もいただいております。新たなつながりや支え合いをつくるきっかけになっています。

今年度も引き続き、ニーズを把握しながら迅速に支援をしていきます。



事例③ 「緊急的な食の支援・相談貸付業務の強化」(茨城県・坂東市)

茨城県坂東市では、緊急的に支援を必要としている世帯への食料配布や、コロナ禍で潜在的な生活支援ニーズを抱える方への貸付相談業務の強化を行いました。

坂東市はもともと見舞金の配分事業を実施していましたが、数年前からフードバンク事業を始めたことや、支援を必要とする生活課題を抱えた世帯を中心に支援ができるよう食料配布などの事業型に切り替えていきました。

また、コロナ禍になり生活相談の件数が急増したことや、食料寄付の増加、SDGsの推進という社会状況にも合わせ、事業を進めていきました。

要支援者の把握には、民生委員・児童委員による見守り活動や、福祉推進員のいる13地区への周知によりニーズを掘り起こしていったほか、ひとり親家庭支援事業などのイベントに参加いただいた方などにも声をかけ、必要により貸付相談や食料配布事業につながっていきました。

食の支援事業に関しては歳末の時期に限らず、夏休み等で子どもが一人であることが多い時期にも実施し、お困りの子育て世帯を支援していきました。また、貸付相談者に一時的なつなぎとして食材を活用いただけるようにするなど、配布の基準は相談者に合わせ柔軟に対応することで、より多くの方々に支援が届くよう工夫していきました。

利用者からは、「コロナ禍になってから、マスクや消毒液などの出費が増えているので、こうした支援を受けられるのはありがたい」といった声をいただきました。

今後も支援を必要としている方々に、素早い対応と広く支援がいきわたるよう取り組んでいきたいと思っています。



食料支援の様子

事例④ 「コロナ禍でのひとり暮らし高齢者見守り訪問」(青森県・八戸市)

青森県八戸市では、コロナ禍で閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者の見守り訪問の際、小学生からのお手紙と、日用品を配布する事業を行いました。

令和元年度までは、小学校に地域の方々が集まり交流する機会を設けていましたが、コロナ禍になり令和2年度は中止となりました。しかし新型コロナウイルスによる影響は長期化し、ひとり暮らし高齢者の方が地域住民と交流する機会はさらに減少していきました。

そのため令和3年度は、ひとり暮らし高齢者の方々の孤立を防ぐため、例年交流していた小学校の児童からのお手紙と、生活に必要な日用品を配布しながら見守り訪問を実施し、計93名を支援することができました。配布には民生委員・児童委員や、「ほのぼの交流事業」という見守り訪問活動で協力いただいていた地域の皆さんに参加いただきました。

配布先の方からは、「コロナ禍で小学校に行けなくなり、交流ができず寂しく思っていたのですが、今回お手紙をいただき、元気が伝わってきてうれしく思います」といった声をいただきました。

そのほか、個々の福祉ニーズの情報把握を進め、ひとり暮らし高齢者等要支援者を把握し、今後の地区での福祉活動についての共通認識を高めることもできました。

コロナ禍での外出制限により地域で孤立しがちな方が多くいると感じられるため、今後もニーズ把握に努め、見守り訪問活動を推進していきます。



民生委員の皆さんが配布に協力